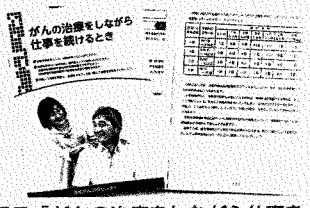
生き生きシニア

支援制度多様 活用を

がん治療しながら仕事続けるには

徳島対策センターが助言本

作成の井後社労士 退職決断 急がずに



冊子「がんの治療をしながら仕事を続けるとき」

徳島県が開設する徳島がん対策センターが、がん治療と仕事を両立させるためのアドバイスをまとめた冊子「がんの治療をしながら仕事を続けるとき」（A5判、31ページ）を発行した。がんは日本人の2人に1人が生涯のうちにかかるとされるが、患者の3割が解雇されたり、依願退職したりしているのが現状だ。冊子を作成した社会保険労務士の井後伸一さん(67)＝吉野川市＝に、治療を続けながら就労する際の諸問題や、利用できる支援制度などについて教えてもらった。

がんと診断されたとき、誰もがショックを受け、治療に専念したいと考える。しかし、治療には長期の入院が必要だったり、定期的に通院しなければならなかったり。「会社に迷惑を掛けられない」と退職を選ぶ人は少なくない。井後さんは「治療を受けながら仕事を続けるのは身体的にも精神的にも苦しいかもしれない。だが、仕事を辞めるという重要な問題を急いで決断するのは避けるべきです」と訴える。

まずは、治療を受ける際に利用できる会社の休暇制度を確認しよう。年次有給休暇は6カ月間継続して勤務し、「働く日」と決められている日数（所定勤務日数）の8割以上出勤した場合に10日が付与される。パートタイマーやアルバイトも一定の要件を満たせば、年次有給休暇が取れる。会社によって法定日数以上の有給休暇が付与されたり、時間単位で取れたりする場合もあるので、就業規則をよく調べてみるべきだろう。

がん治療をしながら仕事を続けていく上での支援制度について説明する社会保険労務士の井後さん＝徳島大学病院

治療に伴う入院や自宅療養のために休職し、会社から給料が出ないときは、加入する医療保険から「傷病手当金」が支給される。支給を受けるには①病気療養中である②仕事をしていない③連続する3日間を含む4日以上会社を休んでいる④給料をもらっていない―といった条件がある。

これらの条件を満たした上で、加入する医療保険に「傷病手当申請書」を提出。会社を休んだ4日目から、1日につき標準報酬日額の3分の2が支給される。受給期間は最長で1年6カ月。受給中に会社を退職して医療保険の資格を失った場合でも、仕事ができない状態が続くなどの受給要件を満たしていれば引き続き支給される。

ただ、傷病手当金は国民健康保険の加入者や、加入していた医療保険に任意継続加入している人は適用されないので注意が必要だ。

しかし、これら手当金を受給していても、入院や通院にかかる費用は決して少額なものではない。そんなときに活用したいのが「高額療養費制度」。病院や保険薬局で支払った医療費が一定額（自己負担限度額）を超えた場合、超過分が払い戻される制度だ。所得に応じて1カ月当たりの限度額が設定されていて▽住民税非課税の人の場合は3万5400円、標準月額報酬26万円以下は5万7600円など―となっている。加入する医療保険に申請書を提出しよう。

「仕事を辞めるのも一つの正しい選択肢だが、退職するのはいつでもできる」という井後さん。「さまざまな制度を活用しながら仕事を続けるとともに、しっかりと治療に専念してほしい」と話している。

冊子は、徳島大学病院や県立中央病院などで配布されているほか、徳島がん対策センターのインターネットのホームページでも閲覧できる。問い合わせはセンターのがん患者総合相談窓口（電088（634）6442）。

（萬木竜一郎）

治療しながら介護施設で働く 川﨑さん（阿南市）に聞く

職場の理解が不可欠

体力低下 無理は禁物

がん治療に取り組みながら仕事を続けていく上で、どのような心構えが必要なのか。53歳の時に前立腺がんが見つかり、治療しながら介護施設職員として働く阿南市の川﨑陽一さん(57)＝現在は休職中、写真＝に聞いた。

（聞き手・萬木）

―がんを告知された時に仕事を辞めようと考えましたか。

肉体労働なので、仕事を続けるのが難しいとも思いました。でも告知後、治療などのために2カ月の休暇を取り、これからのことをゆっくりと考える中で、続けようと決心しました。家族を養っていかなければなりませんでしたし。職場にがんのことを伝え、業務も軽作業に変えてもらいました。

―職場に対し、がんのことを言い出しづらくはなかったですか。

がんになると、たとえ外見的には以前と変わらなくても、身体的に疲れやすく、持続力も低下するものです。職場にがんのことを話すのは勇気が必要ですが、職場の理解なしに治療と仕事の両立は難しいと思います。どんな職種でも、がん治療を続けながらできる仕事があるはずなので、雇用主に業務的な配慮を求めることも大事です。

―がん治療をしながら仕事を続けていく上での心構えを教えてください。

仕事を続けていると、社会とのつながりを感じることができ、気持ちも前向きになります。仕事自体が生きる目標にもなり得ますから。ただ、以前と同じように仕事がしたいと思って頑張り過ぎ、体調を崩してしまってはいけません。自分自身の中で境界線を引き、無理をしない程度に頑張ってほしいと思います。